

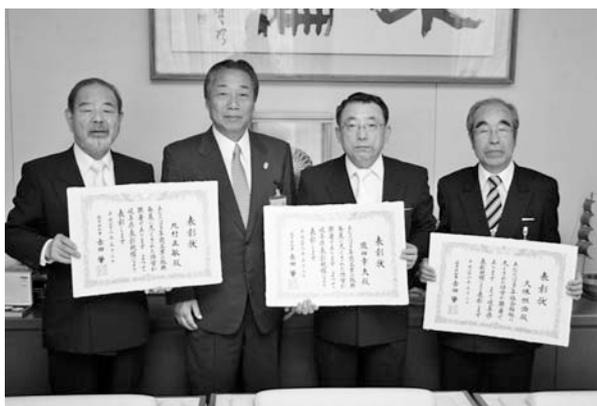
## ちょうちん 提灯と 花火で祝う 海づくり



第30回全国豊かな海づくり大会と市制60周年(合併5周年)を記念して5月22日の夜、「和の祭典」が開催され、約23,000人の市民が参加しました。提灯や国旗を手に市役所を出発した行列は、旭ヶ丘小・中学校から出発した行列と本町通りで合流。

関市文化会館前を通過して市役所までの街中を練り歩きました。沿道の各所では、和太鼓や雅楽、獅子舞などが披露され華やかさを演出しました。提灯行列の後は市役所北側の農地で花火大会が行われ、市内初の尺玉など、大輪が夜空を彩りました。

# あんな事、こんな事



## 地域のため尽力惜しみません

平成22年岐阜県知事各界功労者表彰を受けた市内の3人が受賞の喜びを報告しました。市役所を訪れたのは、久保恒治さん(雄飛ヶ丘)、北村正敏さん(雄飛ヶ丘)、熊田幸夫さん(西門前町)。各分野の発展に尽くされ「ひとえに自分だけの力ではない。家族や周りの人の協力があってこそ大変光栄」と謙遜されました。このほか、久江與四郎さん(板取)も表彰を受けられました。

## 「和の祭典」市民が清掃

5月22日の夜に開催された「和の祭典」の翌日、花火大会の会場をきれいにしようと、早朝から市民ボランティア約200人が集まり、市役所周辺を清掃しました。雨の中、参加者は傘をさしたり雨がっぱを着たりして、ゴミ袋を手に約1時間かけて市役所北側の農地や道路のごみを拾いました。参加していただいた皆さん、大変ありがとうございました。





## 魅力ある公園をつくります

関商工高校土木科生徒5人が、公園改修事業に協力しようと市職員と一緒に市内の公園6カ所を視察しました。より親しみやすい公園へ向けてのアイデアを生徒が出し合い再設計する課題研究で、図面を手で遊具や植木、外灯などの場所を確認し、訪れた地域住民からの意見も参考にして、公園の現状をチェックしました。今後、リニューアルのデザインを完成させ、工事着手する予定です。

## 地域をつなぐ道路

平成24年全線開通予定の美濃東部農道（郡上市美並～恵那市間 23.5\*<sub>0</sub>）のうち、上之保鳥屋市田畑～上之保行合戸丁間 2.5\*<sub>0</sub> の開通式が5月15日に行われ、テープカットやくす玉割りのほか、「かみのほ円空太鼓」の皆さんによる和太鼓演奏で開通を祝いました。開通式終了後、通り初めを行い、正午から一般車両も通行できるようになりました。



## 環境にやさしいクリーンエネルギー

市役所の南庁舎屋上と車庫棟屋根に、県内では最大規模の総計480枚の太陽光発電パネルが設置されました。照明や空調などの電気の一部をカバーし、二酸化炭素の排出抑制と、年間約230万円の使用料金削減を図ります。エネルギーの流れを表示するテレビモニター前で、尾藤市長と市民代表の渡辺一郎さん（西田原）が発電量計測装置のスイッチを作動させました。今後も公共施設への導入を検討していきます。

## 富岡っ子のすくすくたんぼ

富岡小5年生児童が初めて「米づくり」の学習を始め、手植えによる田植えの体験をしました。学校南側の水田を借り、地域ボランティアの指導のもと、泥だらけになりながらもだんだんコツを覚えて一生懸命作業しました。学校は、今後も雑草取りなどをして定期的に成長を見守っていく予定です。みんなで「秋の収穫がとても楽しみ」と豊作を祈りました。



## こぼれ話



鵜匠さんが使う鵜舟とお客さんが乗って鵜飼を観覧する屋形舟の「舟降ろし」の取材に行ってきました。これは、シーズンオフ中に陸で保管されていた舟をクレーンを使って川に降ろし、鵜匠さんや船頭さんたちが舟を洗うなど、鵜飼シーズンを迎える準備をするものです。河川環境の変化から、鮎をはじめとする魚の数が減少していることについて、鵜匠さんたちも大変心配しています。その原因を少しでも減らそうと、舟

洗いには、環境に優しい洗剤とクレンザーを使っていました。これらは天然ミネラルを原料としており、洗剤やクレンザー自体は無害で、万が一の口に入っても安全なのだそうです。天然ミネラルの触媒作用やラジカル反応効果で汚れを分解しながら落とすので、排水に含まれる汚れ自体を少なくできるほか、配水管や河川の汚れも分解する効果も期待できるのだそうです。仕組みは難しく、たくさんの「？」が私の頭の中を駆け巡りますが、環境に配慮した取り組みの一つですね。